

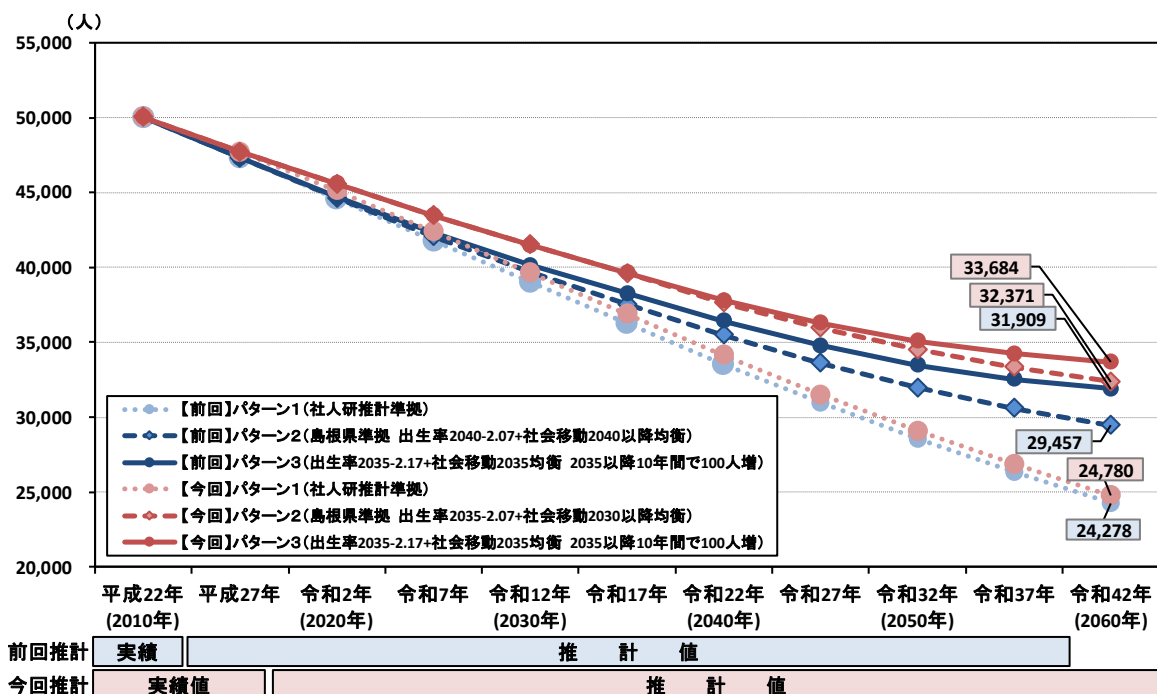
～将来人口の推計～

合計特殊出生率や社会移動について仮定値を変えた総人口推計の比較

ここに示す2パターンの推計は、人口変化の影響を考察するため、各条件を設定し益田市の将来人口を推計したものです。

パターン1の「社人研」推計では、2060年（令和42年）の総人口が24,780人となり、パターン2の島根県の人口シミュレーション2020に準拠した推計の場合には32,371人、パターン3の前回計画と同様の設定となる益田市独自の推計の場合には33,684人と推計されています。パターン1の「社人研」推計と比較すると、島根県の人口シミュレーション2020に準拠したパターン2では、7,591人多く、本市独自の推計によるパターン3との比較では8,904人多い結果となっています。また、平成27年度に策定の人口ビジョン推計結果と比較して、今回推計の求めた人口の減少幅は緩やかとなっています。

■総人口の推計結果



【前回推計】 益田市人口ビジョン 平成27年	実績値		推計値								
	平成22年(2010年)	平成27年	令和2年(2020年)	令和7年	令和12年(2030年)	令和17年	令和22年(2040年)	令和27年	令和32年(2050年)	令和37年	令和42年(2060年)
【前回】パターン1(社人研推計準拠)	50,015	47,306	44,609	41,794	38,992	36,238	33,535	30,946	28,539	26,323	24,278
【前回】パターン2(島根県準拠 出生率2040-2.07+社会移動2040以降均衡)	50,015	47,306	44,615	42,047	39,683	37,512	35,496	33,606	31,959	30,587	29,457
【前回】パターン3(出生率2035-2.17+社会移動2035均衡 2035以降10年間で100人増)	50,015	47,306	44,698	42,283	40,138	38,254	36,426	34,795	33,487	32,534	31,909

(資料)内閣官房まち・ひと・しごと創生本部提供資料を基に作成

【今回推計】	実績値		推計値								
	平成22年(2010年)	平成27年	令和2年(2020年)	令和7年	令和12年(2030年)	令和17年	令和22年(2040年)	令和27年	令和32年(2050年)	令和37年	令和42年(2060年)
【今回】パターン1(社人研推計準拠)	50,015	47,306	45,115	42,383	39,623	36,895	34,141	31,510	29,091	26,868	24,780
【今回】パターン2(島根県準拠 出生率2035-2.07+社会移動2030以降均衡)	50,015	47,306	45,578	43,443	41,499	39,598	37,642	35,947	34,509	33,339	32,371
【今回】パターン3(出生率2035-2.17+社会移動2035均衡 2035以降10年間で100人増)	50,015	47,306	45,589	43,447	41,467	39,633	37,802	36,293	35,095	34,233	33,684

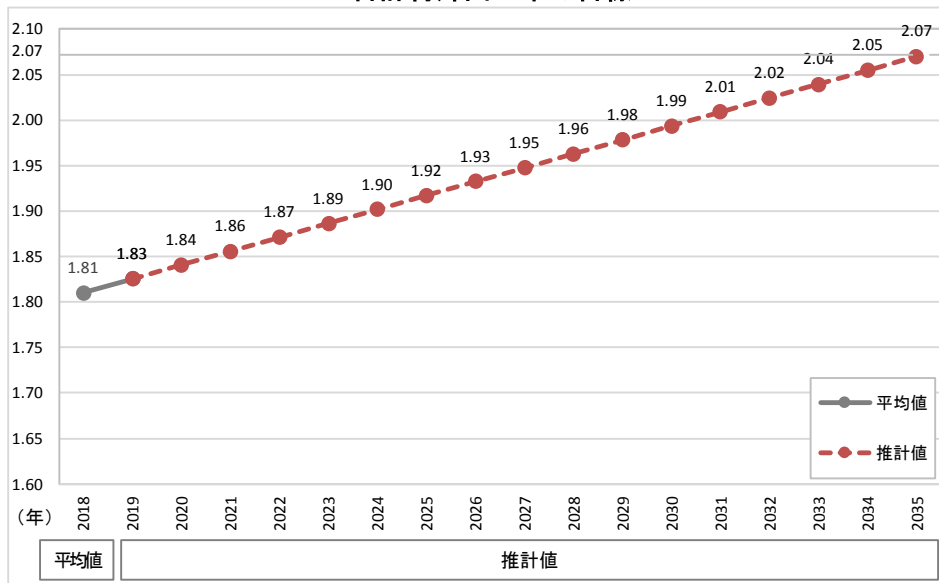
パターン2で用いた合計特殊出生率と社会移動に関する設定の考え方

パターン2の推計に必要な以下に示す仮定値の設定については、島根県の人口シミュレーション2020に準拠しています。

●合計特殊出生率の目標

合計特殊出生率については、島根県の人口シミュレーション2020において、2035年に2.07となっていることから、本市においても2018年(2013～2017年の平均値)を起点として、2035年に2.07を目指します。

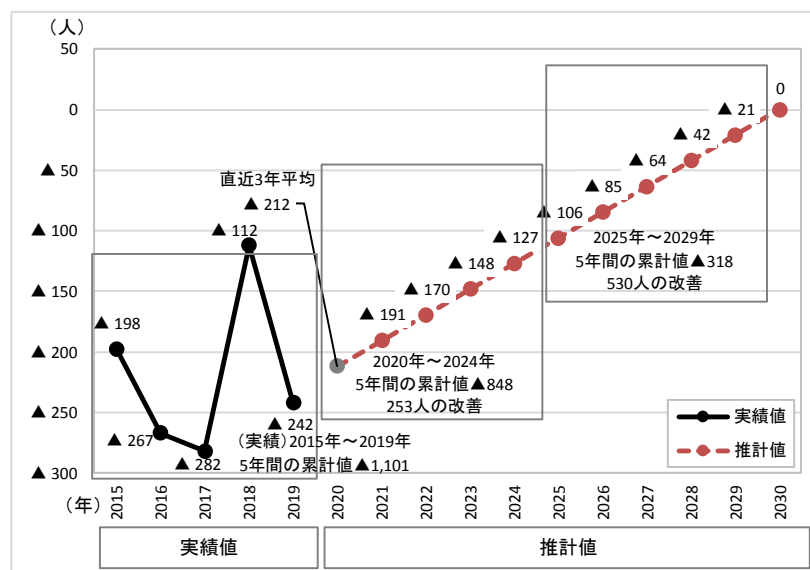
■合計特殊出生率の目標



●人口の社会移動の目標

人口の社会移動については、島根県の人口シミュレーション2020において、2030年に均衡(±0)となっていることから、直近の実績値を踏まえた2020年(2017～2019年の3か年分の平均値)を起点として、2030年に均衡(±0)を目指します。

■社会移動の目標



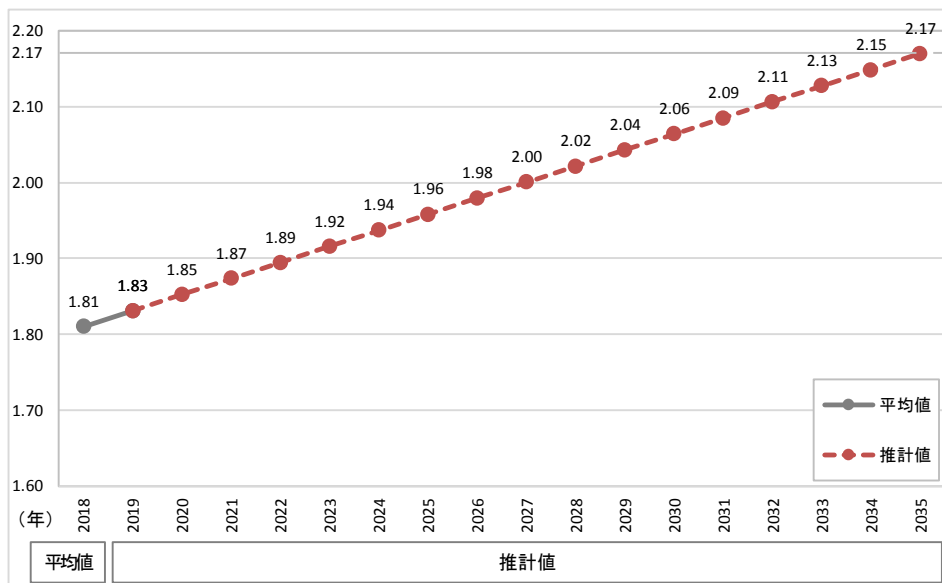
パターン3で用いた合計特殊出生率と社会移動に関する設定の考え方

パターン3の推計は前回策定の人口ビジョンの設定条件を踏襲しています。仮定値の設定にあたっては、益田市独自の推計として、合計特殊出生率及び社会移動均衡を設定するほか、更なる人口減少抑制に努めることを目標として、社会均衡後に段階的に社会増を見込んだ将来人口をパターン3として推計しました。

●合計特殊出生率の目標

合計特殊出生率については、直近の実績値を踏まえた2018年（2013～2017年の平均値）を起点として、2035年に2.17を目指します。

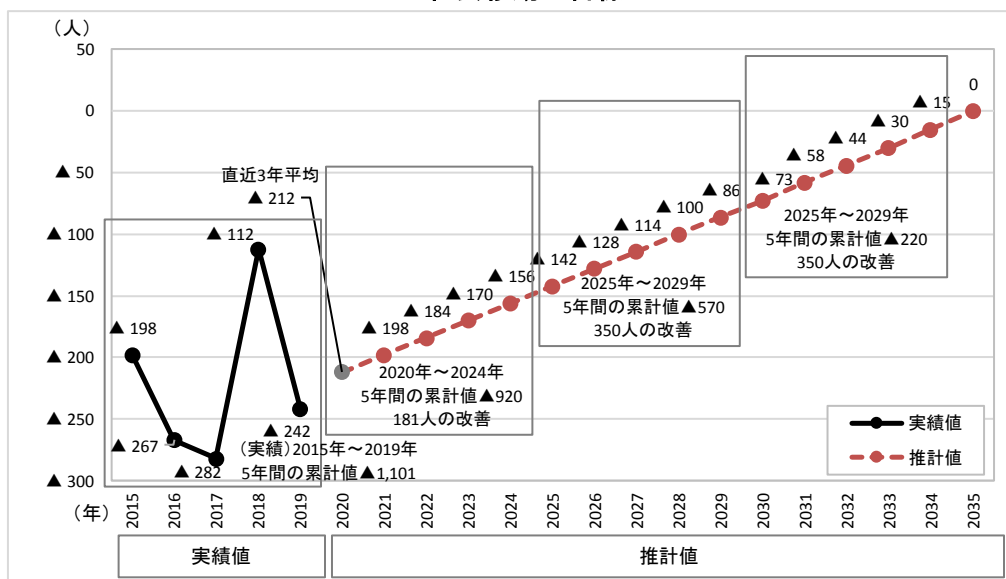
■合計特殊出生率の目標



●人口の社会移動の目標

人口の社会移動については、直近の実績値を踏まえた2020年（2017～2019年の3か年分の平均値）を起点として、2035年に均衡（≒0）を目指します。

■社会移動の目標



●社会均衡後の人口目標

社会均衡後の人口目標については、10年間で100人ずつの増加を見込みます。